

《2026 年 7 月 公開サロン（通算 357 回）報告》

メキシコへ行ってきました！

FIFA ワールドカップ 2026 を語ろう①

【主 催】特定非営利活動法人サロン 2002

【後 援】（一社）子ども未来・スポーツ社会文化研究所

【日 時】2026 年 7 月 17 日（金）19：00～20：30（終了後、近隣で懇親会）

【会 場】NORBDENCE 福島区民センター306 会議室 およびオンライン（Zoom）

【テーマ】メキシコに行ってきたーFIFA ワールドカップ 2026 を語ろう①

【演 者】中塚義実（特定非営利活動法人サロン 2002 理事長／元高校保健科教諭）、
小島裕範（特定非営利活動法人サロン 2002 会員／事業再生コンサルタント）

【参加者 23 名】

注）名前の前の記号は、◎NPO サロン 2002 会員、○会員外のサロンファミリー、無印はサロンファミリー外

＜オンライン 11 名＞

大塚江美子（主催者友人）、○桑村裕次（日本サッカー史研究会）、◎小堀徹（フットボール
狂）、◎笹原勉（日揮台湾事務所）、◎嶋崎雅規（国際武道大学）、○新谷十穂子（郁文館高校 2
年）、○高平豊明（サッカー文化フォーラム）、◎茅野英一（元帝京大学）、◎野村忠明（埼玉ソ
ーシャルフットボール協会運営委員/会社員）、○守屋佐栄、◎守屋俊秀（世田谷サッカー協会）

＜対面 12 名＞

岡本亜希子、黒田勇（関西大学名誉教授）、◎小島裕範（株式会社 KJ ソリューションズ）、
杉本厚夫（（一社）子ども未来・スポーツ社会文化研究所）、鈴木義章（神戸高塚高校）、
◎高原渉（宝塚 FC）、◎中塚義実（NPO 法人サロン 2002 理事長）、○長野いつき（音楽家）、
永松慎二（株式会社ムツキトーカ 代表取締役）、◎本多克己（神戸アスリートタウンクラブ）、
宮崎康雄（主催者の友人）、村山勉（セレッソ大阪 SC）

【報告書作成】中塚義実・小島裕範

注）写真・スライドは、クレジットが入っているもの以外は発表者が提供

＜目 次＞

はじめに ■概要（通信より） ■参加者自己紹介（略）	2
I. FIFAワールドカップ2026ーメキシコの旅の計画	3
II. メキシコに行ってきたー旅の実際	5
III. 意見交換ー「メキシコ」と「FIFAワールドカップ」	22

【キーワード】FIFA ワールドカップ、W 杯、メキシコ、メキシコシティ、モンテレイ、ファン
フェスタ、テオティワカン、テノチティトラン、民族、国家、小島裕範、中塚義実

はじめに

■概要（7/1 理事長より「通信」にて配信）

史上初の 3 か国共催となった FIFA ワールドカップ 2026 はグループステージが終わり、32 チームのノックアウトステージに突入です。日本サッカーの「世界一への挑戦」は、ブラジルの厚い壁に阻まれましたが、「地球人の祭典」はまだまだ続きます。目が離せません（だからずっと時差ボケです）。

日本から多くのサポーター、観光客が北中米へ向かいました。サロンファミリーも多数出かけています。

理事長の中塚義実と会員の小島裕範も、6 月 14 日から 23 日までの 9 泊 10 日、メキシコに行ってきました。中塚は 2010 南アフリカ大会以来 5 度目の W 杯現地観戦で、メキシコは初訪問。小島は 2014 ブラジル大会以来 5 度目の現地観戦で、1986 年に「世界の時間を二度止めた男」となって以来、2 度目のメキシコ訪問です。

7 月の公開サロンで「メキシコに行ってきました」と題して、おっさんたちの濃くて熱い旅をご紹介します。

大まかな内容は次のとおりです。

1. FIFA ワールドカップ 2026—メキシコの旅の計画

2. メキシコへ行ってきました！—旅の実際

6 月 14 日(日) 24h+15h の長い一日（オランダ戦はファンフェスタで）

6 月 15 日(月) テオティワカン観光

6 月 16 日(火) メキシコ市内観光

6 月 17 日(水) ウズベキスタン vs コロンビア観戦

6 月 18 日(木) メキシコ vs 韓国をファンフェスタで観戦

6 月 19 日(金) モンテレイへ移動

6 月 20 日(土) モンテレイ市内観光&日本 vs チュニジア観戦

6 月 21 日(日) ウルグアイ vs カボベルデをファンフェスタで観戦

6 月 22~23 日(火) 直行便（12 時間）で帰国⇒日常へ

3. 感じたこと、考えたこと

- ・「メキシコ」という国と人々
- ・「ワールドカップ」の変化と日本 etc.

久々に大阪で開催します。オンライン参加もあります。思う存分メキシコとワールドカップを語り合いましょう！

【参加申し込み】Peatix で参加申し込みを受け付けます ⇒<https://peatix.com/event/5071298>

参加費は 1,000 円です。

オンラインで申し込まれた方には Peatix 経由で Zoom 情報が届きます。

【報告書】発表者が作成します。

■参加者自己紹介

(略)

I. FIFA ワールドカップ 2026ーメキシコの旅の計画

1. ワールドカップとわたしー自己紹介を兼ねて

中塚：4年に一度のワールドカップは、「あの頃こんなことしとったなあ」を思い出す道しるべです。まずは中塚と小島のFIFAワールドカップとの関わりについて、改めましてになりますが、自己紹介を兼ねてお話ししておきたいと思います。

私が初めてワールドカップを知ったのは大阪府茨木市立南中学1年生のとき。小学生のころは遊びの一つとしてのサッカーでしたが、中学生になってサッカー部に入り、1学期が終わるころに1974年の西ドイツ大会がありました。決勝戦のTV中継についてはまったく知らず、見ていません。

夏休みの終わりごろに本屋へ行くと、サッカーマガジンやイレブンの「ワールドカップ特集号」が並んでいます。ワールドカップを知るきっかけでした。「ワールドサッカー（東京ではダイヤモンドサッカー）」という番組があることを知ったのもその頃で、最初に観たのがブラジルvsスコットランドの試合でした…。こんなふうに話をしていくときりがないので、実際に行くようになってから。

1998年フランス大会が、現地観戦の最初です。初のヨーロッパでもありました。4年後は我々がホスト国になるので、その前にどうしても現地で体験しておかなくてはとの強い思いで、その2年ぐらい前から職場の同僚や管理職に話をし、JFAから派遣依頼状を出してもらい、約10日間の「海外研修」として行ってきました。それ以降、2002年の韓国と日本、2006年のドイツ、2010年の南アフリカと、いずれも現地観戦しましたが、2014年以降の現地観戦はかないませんでした。

退職した今回、小島さんから声をかけてもらったこともあり、久しぶりの現地観戦となりました。

ワールドカップとわたし①中塚義実	ワールドカップとわたし② 中塚義実
■1974年 西ドイツ大会(中学1年) 1961(昭和36)年生まれ ダイヤモンドサッカー(大阪では「ワールドサッカー」)での衝撃 最初に観たのはブラジルvsスコットランド 小3～高3は大阪 ■1978年 アルゼンチン大会(高校2年) ・毎晩スポーツニュースでやってくれるのを期待していたが、野球とゴルフばかり ・決勝のNHK中継は、あろうことか寝過ごした！(人生最大のミス) ■1982年 スペイン大会(大学3年) 大学～大学院は筑波 総理大臣杯の宿舎にてアルゼンチンの敗戦を観る ジーコさんたちのブラジル、プラティニ&ジレスのフランスに感銘 決勝戦をTV観戦後、北海道旅行へ(仙台から鈴木淳と二人旅。最後は一人) ■1986年 メキシコ大会(大学院2年目) 修了後すぐ筑波大附へ 小島氏の韓国報告会は中塚のアパートで ■1990年 イタリア大会(教員3年目) 新婚旅行の代わりに衛星放送が見られるテレビを購入。開幕戦は教生が… ■1994年 アメリカ大会 NHKの「ワールドカップダイジェスト」の仕事(土曜日深夜)。 「東欧サッカーの秘密をさぐる」の制作に携わる。 夜勤明けで、東京教員の試合(自分)やDUOリーグ(生徒)に参加。	①1998年 フランス大会 4年後はホスト国。使命感を持ってフランスへ 「海外研修」として初のヨーロッパ。 ②2002年 韓日大会 1999年には韓国体育学会のシンポジウムに登壇 両国間の隔たりがなくなってきたことを感じる ベルギー戦、ロシア戦、をスタジアムで。チュニジア戦は物理実験室で観戦 週末に韓国へ。アメリカvsメキシコと韓国vsイタリアを現地観戦 決勝戦を横浜で ③2006年 ドイツ大会 サロンinフランクフルトを2度開催 日本vsブラジルを観戦 ④2010年 南アフリカ大会 日本vsカメルーン、ブラジルvs北朝鮮を観戦 アフリカーナーの聖地とアパルトヘイトミュージアムのツアー参加(ブラジル人カップルと) ■2014年 ブラジル大会 ■2018年 ロシア大会 ■2022年 カタール大会 2024年度末で退職。 ■2026年 北中米大会:メキシコへ！ 人生のリスタート(人生100年時代)！

小島：初めてのワールドカップは中学2年のアルゼンチン大会です。決勝の紙吹雪に愕然としました。世界のサッカーとの出会いであり、大学でラテンアメリカ文学を専攻したのもここが原点です。サッカーマガジンに賀川浩さんが連載されていた「ワールドカップの旅」は、暗記するほど読み込みました。

大学4年次の1986年大会は、メキシコに20日間滞在しました。アステカスタジアムでのブラジルvsフランス戦で、フェルナンデスがゴール裏に蹴り込んだシュートを2度もキャッチして「世界の時間を2度止めた」のはこのときです。

ワールドカップとわたし 小島裕範
■1978年 アルゼンチン大会(中学2年) 1964(昭和39)年生まれ リバープレートスタジアムの紙吹雪に愕然 京都市出身 世界のサッカーとの遭遇・ラテンアメリカの文化への憧れ 賀川浩さんの「ワールドカップの旅」を暗記するほど読み込む 筑波大 人文学類 ①1986年 メキシコ大会(筑波大3年) ラテンアメリカ現代史専攻 神の手ゴールやブラジルvsフランス、ネグレッテのボレーシュートなど11試合 世界の時間を二度止める 東京都社会人リーグ1部 ②1990年 イタリア大会 目白クラブなどでプレー 新婚旅行(大会に合わせて相手を見つけた?) イタリアvsアイルランド、イングランドvsベルギーなど4試合 1996年～2001年 新編でサッカー振興ムーブメント Alliance2002主宰 ③2002年 韓日大会 日本vsチュニジア、イングランドvsデンマークなど4試合 ④2014年 ブラジル大会 オリックスなどで事業再生投資に関与 賀川浩さんのツアーに入れてもらう 日本vsコートジボワール、日本vsギリシャなど3試合 ⑤2026年 北中米大会:メキシコへ！

1990 年イタリア大会は新婚旅行で、ホスト国の 2002 年韓日大会も 4 試合観戦。2014 年のブラジルは、賀川浩さんのツアーに同行させてもらいました。本多克己さんも一緒でした。セルジオ越後さんが企画、同行してくださった充実の旅でした。

それ以降、現地観戦の機会はなかったのですが、今回は中塚さんとメキシコへ行ってきました。

2. メキシコ旅行の発端と計画

小島：旅の発端は、前職のオリックスの後輩からの誘いでした。ダラスは彼が 5 年間赴任した地であり、私も研修で 1 週間滞在した思い出の地です。組み合わせ抽選前の話でしたが、抽選の結果、なんと日本代表がダラスで 2 試合。モンテレイも往復可能ということで、一気に具体化しました。彼の息子の分も合わせて 5 試合×3 枚を FIFA のサイトで申し込みますが、当たったのはモンテレイのチュニジア戦のみでした。

そのうち、彼の息子が「行かない」と言い出し、急に彼の勢いもなくなってきます。

「さて困った、誰に声をかけようか…」

私は東京都リーグの目白クラブで何年かプレーしたこともあり、目白の関係者か筑波大の人脈か、最悪一人でも行こうかなどと考えていたときに思い浮かんだのが中塚さんでした。

声をかけてみると快く、「行こうやないか」と。

中塚さんはメキシコという国にもご興味があったんですね。

旅の発端～事前準備(小島)

「コジマさん 思い出の地、ダラスに行きましょう！」(前職の後輩・N君)
ダラスはN君が5年半海外赴任した地。小島も研修で1週間滞在。

「なんと！日本代表ダラスで2試合。モンテレイも往復可能ですよ！」
勇躍してN君の息子さん(大学生)の分も含め5試合×3枚を申し込みが、当たったのはモンテレイのチュニジア戦のみ。

「チケット高騰とFIFAの商業主義に抗議して息子が行かないと言い出しました。私もダラスに行けないとなると…」
さて困った。誰に声をかけようか？
目白クラブ関係者？筑波人脈？最悪1人でも行くか…。
思い浮かんだのが…。

さあ、大変だ！
セリエツアーに申し込まなきゃ。語学アプリでスペイン語やり直そう。
メキシコでのインターネット環境ってどうやって確保するの？
仕事の調整もやらんといかん…。
そもそもFIFAからチケット届かんぞ。

嬉しくも忙しい数週間でした。



中塚：メキシコには興味がありました。アメリカは、嫌いじゃないけど、あの国を仕切ってる大統領は嫌なので（笑）、アメリカには行きたくないという方針でした。

小島：ちょうどお互いの利害が重なったわけです。だけどモンテレイの試合を一つだけ見てもしょうがないということで、サロンファミリーでサッカー観戦ツアーを手掛ける柊セリエの徳田仁さんをお願いして、メキシコシティでの試合、往復の足、宿を手配していただき、個人旅行の 2 人ツアーとして申し込んだわけです。

大学時代はラテンアメリカ専攻でスペイン語を少しばかりやっていたので、改めて「デュオリンゴ」などを使って勉強し始めました。久々の海外旅行なのでわからんことだらけです。ドタバタと準備をした数週間でしたが、6 月 13 日、奇しくも 40 年前にメキシコ大会に行った時と同じ日に、大阪の自宅を出発しました。

中塚：「語学アプリでスペイン語」という話がありましたが、去年 3 月末に教員をやめた私が始めたのは、NHK ラジオのスペイン語講座です。もちろん理由はワールドカップ。目標は 2030 年のスペイン・ポルトガル・モロッコと南米で開かれる大会で、そのころにはスペイン語で現地の人とコミュニケーションが取れるようになりたいというものでした。あわよくば 2026 年のメキシコも…。けどスペイン語は難しい。全然身につけません。それでも現地へ行ってみなわからんということもあってメキシコ行きを考えていたところに小島さんから声がかかった、これは行くしかないということでした。

II. メキシコへ行ってきました！－旅の実際

■第 1 日：6 月 14 日(日)24h+15h の長い一日（オランダ戦はファンフェスタで）

中塚：6 月 14 日（日）の朝 9 時 35 分の成田空港発のアエロメヒコでした。11 時間 40 分のフライトで時差は 15 時間。到着するとまだ 6 月 14 日(日)の朝でした。初日はメチャクチャ長かったですね。メキシコシティ国際空港は W 杯一色です。我々は日本とメキシコのユニフォーム姿です。

タクシーに乗ってホテルを目指します。到着は日曜日の朝 8 時半。メキシコ中心部を通るレフォルマ通り沿いの、実によいホテルでした。朝早い時間だったけどチェックインできたので、荷物を置いて、さっそくホテルの周りを散策します。革命記念塔が近くにあります。セブンイレブンがあったので中に入ります。おにぎりがありましたが、値段をみると 1 個 60 ペソ。10 倍すれば日本円の価格になります。600 円ですね。高いなあと思いましたが、これはおにぎりが珍しいからで、物価は日本と似たような感じでした。



小島：似たようなものでしたね。日本のおにぎりはちょっとレアなんだろうと思います。

中塚：ソカロというメキシコ市中心部のファンフェスタ会場を目指します。現地時刻 14 時から日本とオランダの試合があるので、そこで見ようという計画です。

途中にアラメダ公園があります。大勢の人でにぎわっています。その一角にこういうのを見つけました（左写真）。帰国翌日の朝日新聞には、「ボールは家に帰った 家族はいつ帰る」「メキシコ行方不明者 13 万人 国の捜索不十分」の見出しの記事がありました。

このあたりについて、後ほど小島さんから解説してもらいます。

公園内のベジャス・アルテス宮殿は劇場となっているようですが、その前でパレスチナの旗を振っている人たちを見かけました。スペイン語で書かれた旗には、「ジェノサイドがあるのにワールドカップなんかやってる場合か」と書かれているようです。「ガザ問題」についての主張です。



オリンピックもそうだけど、ワールドカップのような国際イベントは、社会的弱者が声を上げてメディアに取り上げてもらうアピールの場でもあるということを、着いたその日に感じた次第です。

ソカロに向かっていく途中の光景です。市内のど真ん中、東京の銀座みたいなところですが、そこでテント生活している人の一角がありました。

このあたりについて小島さんからお願いします。

小島：メキシコでこの光景を見たときは、ホームレスの人たちに、政府がテントを用意して住まわせてるんじゃないかと中塚さんと話していたんですが、日本に戻って調べてみると、そうでないことがわかりました。「プランシオン」と呼ばれる政治的な座り込み抗議キャンプで



です。全国教育労働者調整委員会という、メキシコの公立学校の左派の教員組合の人たちが、自分たちの待遇改善や教育予算の増額、地方の学校環境の改善、過去のデモ等で解雇された教員の復職、こういったところを求めてやっている活動です。特に、教育環境の劣悪な、メキシコ南部のチアパス州やオアハカ州の教員がここへ出てきて、座り込みのようなことをずっとやっていると。先ほどのベジャス・アルテス宮殿前の抗議活動も一緒ですが、この時期はワールドカップで耳目が集まるということで、いろんな人たちがいろんな抗議活動をやっていたみたいです。ここはそういうことだったようです。



中塚：そのすぐ横が、ソカロのファンフェスタ入口です。「スリに気をつけろ」と散々言われましたが、大丈夫でした。

歴史的建造物の横に大きな広場「ソカロ」があり、そこが市の中心部のファンフェスタ会場になっ



ています。ここではいろいろ遊べるんです。左下の写真はユニフォームを着たロボットです。一緒に写真を撮ったりして遊んでいます。右下はビールのお店。ファンフェスタの管理エリア内は、ビールもつまみもメチャクチャ高く、ビール 1 杯 300 ペソ。3,000 円もします。

小島：しかもノンアルでしたよね。

中塚：だからその後は、管理エリア内でビールを買わないように努めました。何度か買ったけど…。

我々は日本代表の青と白のユニフォームです。この色合いが良かったのか、メキシコ人はじめいろんな人から「写真撮ろうよ」と声をかけられ、大人気でした。たいていその人のカメラで撮るから、被写体にはなるけど、一緒に撮った写真はあまり残っていません。これはたまたま我々のカメラで撮ったものです。オランダ人は少なかったですね。

試合は 14 時キックオフ。日本では午前 4 時でしょうか。ファンフェスタに来ていたのは日本人と大勢のメキシコ人。満員ではないけど、ほとんどが日本を応援していました。

ハーフタイムも試合前後も、「FIND LOVE - SHARE A KISS」で盛り上がりました。カップルにカメラが向けられ、巨大スクリーンに大映しになります。映されたカップルはその場でキスするという企画です。

右の写真は日本の得点シーンですね。試合は 2-2 でオランダと引き分け。

試合後はメキシコ人はじめいろんな人が「ハポン、ハポン」と言って祝福してくれます。韓国、コロンビア、ドイツ…。計 30 組ぐらいと写真を撮ったのでしょうか。テレビかネットのインタビューも受けました。いつになってもファンフェスタから出られそうにありません。次の試合が始まりそうになったところで外に出ました。ファンフェスタではずっと、W 杯の試合をやっています。

歩きながらホテルに向かう途中のレストランで、ビールとメキシコ料理の夕食にします。店員のお姉ちゃんは学生アルバイトのようでしたが、「写真を撮ってる」と言っています。

アラメダ公園でみた行方不明者の写真のことを言うと、「私もあそこに写真を出してるんだ」と言っていました。このあたりのやり取りは、スペイン語が達者な小島さんがやってくれました。



こんな感じの料理を注文しました。料理を右上の「トルティーヤ」で包むパターンが多かったです。滞在中、メキシコ料理に飽きることはありませんでした。ビールもいろんな種類があつて良かったですね。

メキシコ市の標高は約 2,200m。山に囲まれた盆地です。メチャクチャ暑くて日差しが強い。雨季なので、夕方になるとほぼ毎日スコールがあるといった感じです。

■第 2 日：6 月 15 日(月) テオティワカン観光

中塚：W 杯に行くからと言って、試合だけ見ているわけではありません。いろんなところに出かけます。2 日目はテオティワカンという、メキシコの遺跡に出かけました。ピラミッドで有名なところですよ。地下鉄で高速バスターミナルへ行き、1 時間半のバス旅行です。

左上が「太陽のピラミッド」、左下が「月のピラミッド」です。

小島：40 年前に行った時、太陽のピラミッドはてっぺんまで登れましたが、今回は登れなくなっていました。世界遺産に指定されて、遺跡の環境を守ろうという意図が一つと、もう一つは、たぶん落ちたやつがいたんだと思うんです。

てっぺんに柵とかはなく、僕も上がったんですけど、正直ビビってました。怖かったです。柵がないのに上げたらあかんよな、というのが正直なところですよ。



中塚：月のピラミッドは、半分までは登れるんです。我々も登ったんですけど、こういう急傾斜の階段ですよ、これは。

ちなみに、小島さんが万歩計で、毎日、どれくらい歩いたかを測っていました。2 万から 3 万歩ですよ。よう歩きましたね。大抵、海外へ行くと食べたり飲んだりするので、ジョギングしたくなるんですけど、今回ばかりはジョギングはええわという感じでした。

この周辺には物売りが大勢います。右上のおじさんから鳥笛を買いました。小島さんと私、2 個で 120 ペソです。

小島：ここの物売りたちは、日本人を見ると「安い!」「ほとんどタダ!」っていうのが定番です(笑)

中塚：だっ広いテオティワカンを歩きまわり、夕方まで過ごしました。夕食とりながら 19 時からのイラン vs ニュージーランドの試合を見ようということで、革命記念塔付近のレストランに入りまし

た。そこにいた人はみなイランを応援していました。メキシコ人は、アメリカと対立するイランに情が移っているような印象でした。

このお店には、すぐ片付けようとする謎の店員がいました。トルティーヤにくるむメキシコ料理は、手がすぐネチャネチャになるんです。紙ナプキンを使いながら食べるんですが、気を使ってくれているのか知らんけど、ムスッとした顔で寄ってきてすぐ片付けようとする…。

小島：たぶん彼は、片付ける係なのでしょう。サーブする係はまた別にいて、お勘定も別なんです。だから彼に「お勘定」って言っても、ちっともたどり着かない。店長みたいなおばさんに「お勘定」って言ったら、すぐにできました。

■第3日：6月16日(火) メキシコ市内観光

中塚：翌日も朝からメキシコ市内散策です。メトロに乗って数駅行ったチャプルテペック公園に行きました。各国のブースが出ていて、まるで万博です。ワールドカップにあわせての開催でしょうが、ハンガリーのブースなどもありました。

小島：チャプルテペック公園にある英雄少年記念塔という、6つの塔のモニュメントがあります。この公園に昔、士官学校があって、士官候補生たちが学んでいた。米墨戦争があった時に、アメリカ軍がここに攻めてきて、メキシコシティは陥落するんですが、その時に士官学校の一つ、チャプルテペックで戦いがあって、そこで命を落とした6名の士官候補生の少年を悼んで建てられた塔だということです。

中塚：この塔の奥に、国立人類学博物館があります。『地球の歩き方 メキシコ』でも何ページかにわたって紹介されている立派な博物館です。せっかくだから行くことにしました。すると博物館の手前で、興味深いパフォーマンスをやっています。塔のてっぺんから、4人の先住民らしき人が逆さ釣りになってぐるぐる回って降りてくるというものです。

小島：帰ってから調べたんですけど、メキシコシティから東の方角、メキシコ湾岸にベラクルスという州がありまして、その先住民族の雨乞いの儀式だそうです。4人というのは、火・水・土・風という自然の四要素を意味しています。てっ



ぺんまで登って、足に紐をくくりつける。一番上にもう一人、笛吹きおじさんがいて、その笛に合わせて、紐がだら一んと下がってぐるぐる回り始める。

これも、13 回回ったら地面に着地するようになってるんですって。数えてなかったですけど。

中塚：へー。

小島：なんで 13 なのかというと、13 回×4 人で 52。この 52 というのが、アステカのカレンダーの 1 世紀という意味なんだそうです。52 年でアステカ帝国は 1 世紀ということです。それで彼らは、これに合わせて回っている。

けど、足をくくりつけて頭が下がった状態です。脳みそどうなってんねんっていうぐらい、G が掛かってると思います。最後ピタッと着地して、これが終わると、笛吹おじさんをはじめ回っていた人たちがお土産を売りに来るんです。僕らは「こんなもん買わへんがな」と言って無視してたんですけど、後で調べると、この人たちはベラクルス州あたりから出稼ぎに来ている。こんなに危険なことをやっているのに大した給料をもらえない。だからチップとか、土産物。あれがないと生活できないらしいんですよ。だから今にして思えば…

中塚：買ってあげればよかった…

小島：そういうことで、少し後悔しております。

中塚：というパフォーマンスを見てから中へ入ると、これがまた 1 日では足りないぐらいボリュームのある博物館でした。

サッカーに関わる者として、メキシコの博物館へ行くのなら、尻でボールを蹴って石の穴にボールを入れる「フエゴ・デ・ペロタ」の展示はないかと思うわけです。フットボールのルーツの一つですね。

ちゃんとこういうのが展示されていました。

フエゴは「遊び、ゲーム」で、ペロタはボールです。石のリングの真ん中に、ゴムでできたボールを入れるという遊びで、マヤ、アステカ文明のころ、宗教的儀式として行われていたということです。これはまた別の博物館でも出てきます。

まだ 3 日目ですが、節目節目でお土産を買っておかないといけません。市内散策の際、いくつか市場へも行きました。2 歳と 3 歳の孫へのお土産は、子ども用リュックサックです。一つ 120 ペソ。けどこれが、クレジットカードを使うと 140 ペソだと言われました。現金を奨励してるのか、カードがめんどくさいのか…。シウダデラ市場のお店でのできごとでした。

19 時からアルゼンチン vs アルジェリアがあるので、ホテル近くのレストランで夕食をとりながら見ることにしました。メッシがいきなりハットトリック。すごかったですね。



■第4日：6月17日(水) ウズベキスタン vs コロンビア観戦

中塚：この日はついにスタジアムで観戦です。その前に、メキシコ市内を引き続き散策。独立記念塔のあたりまで行ってみることにしました。

大通り沿いにたくさん銅像があります。誰なのかよくわかりません。そして、こういうのをいたるところで見かけました。

小島：元々は、台座に乗っている人の銘板、レリーフが貼ってあったと思うんですが、誰かが盗んでいったんでしょうね。金属が欲しいからでしょう、おそらく。

「ドンデ エスタ」って書いてあるんです。「どこへ行ったんだ」っていう意味です。

中塚：独立記念塔が後方に見えるレフォルマ通りのロータリーにも「行方不明者」の写真がありました。



小島：メキシコでは、13 万人もの行方不明者のことが取り上げられていました。すごい数です。

行方不明者とはどういう人たちなのか、本当のところはわからないんです。なぜ行方不明になったのか。

だけど、いわゆるマフィアとか犯罪組織にさらわれて連絡がつかなくなった人や、反政府的な動きに対して連行された人もいたかもしれない。そういう人たちがすごい数になっていて、このように写真で残っているわけです。



先ほども話したように、ワールドカップで世界中のメディアがやってくる時期に、こういうアピールをする。忘れられてきた「私たちの息子がいるんです。ワールドカップをやってる場合か。その予算があるのなら探してくれ」という思いですよ。『マドレス・ブスカドーラス（捜索する母たち）』と呼ばれているそうですが、息子をさらわれた母たちを称する名前です。

ちょっと脱線すると、例えばアルゼンチンやチリが軍政を敷いていた時に、反政府活動をして殺されたり行方不明になった人たちが何千人もいました。これについても、確かアルゼンチンでは、大虐殺が起こった日には毎年、お母さんたちが喪服を着て、虐殺が行われたところに来る。マドレはお母さんという意味ですが、マドレたちがそこに来るという「習慣」が何十年も行われている。（アルゼンチンではブエノスアイレスの「5月広場」に、今も毎週木曜日に「母たち」が集まっています。5月広場は大虐殺そのものが行われた場所ではなく、大統領府の前にある広場だそうです。訂正し補足いたします。小島）ラテンアメリカの国々には、そういう部分があるんでしょうね。そのシーンは吉本ばななの小説（不倫と南米）にも出てきますけど、ラテンアメリカの光と影、そのうちの影の部分が、こういうところに垣間見えるわけです。

中塚：1978 年のアルゼンチン W 杯での話が、NHK のドキュメンタリーでやっていました。軍政下での大会です。「なんとかマドレ」が活動しているところを、たまたま W 杯の取材で来ていた世界のメディアが知る。これは何だということになって取り上げてくれたおかげでようやく表に出たという話です。世界が注目するワールドカップだからこそという話ですね。

少しずつ、街の中に黄色いシャツが増えてきます。コロンビア人です。

メキシコシティでウズベキスタン vs コロンビアがあるので見に行くことにしましたが、最初は「パッとせんカードやなあ」と思っていました。

いやいや、行ってホンマに良かったです。

街中がどんどん黄色に染まっていく。その人たちがスタジアムに結集する、スタジアムで大騒ぎ…。

これは現地だからこそわかる感覚ですね。



まだキックオフまで時間があるので、もう少し市内観光です。メトロに乗ってコヨアカン、サンアンヘル地区へ行きました。

フリーダ・カーロのことは何も知りませんでした。強いて言うなら、いまやっている NHK ラジオのスペイン語講座で、僕は月～水の初心者向けしかやらないけど、木金の上級者向け講座は「フリーダ・カーロの世界」とうタイトルです。「誰やろ?」と思っていましたが、有名なアーティストで、生家は博物館になっています。

小島：嫁さんに。フリーダ・カーロの自画像の T シャツをお土産で買って帰ったんですが、嫁さんがそれを着て知り合いに会ったら、すごい反応があったらしく、「これすごい人の T シャツじゃない?」と言われました。僕らは知らんのに。みんなはよく知っているみたいです…。



中塚：フリーダ・カーロ博物館の前を歩いてくるとフリーダ・カーロの壁画があり、サッカー場というか、遊びでサッカーができそうな人工芝の公園がありました。

さらに歩いた先に、トロツキー博物館がありました。ロシア革命の指導者の一人ですが、レーニンと決別したあと海外へ亡命し、この地で数年過ごしたあと、暗殺されたということです。そこが博物館になっていました。

またメトロに乗り、メキシコ国立自治大学 (UNAM) へ行きます。だだっ広い大学で、筑波大学みたいな感じで、勝手に入れます。壁画が有名で、いたるところに壁画でラッピングされた建物があります。

小島：1960 年代かな、もうちょっと前か。メキシコをはじめ世界中のナショナリズム、民族主義が勃興した時代に、文字が読めない人たちにもメキシコの民族的なアイデンティティを醸成しようということで、メキシコの芸術家たちが壁画でそれを示そうという運動が生まれ、それでいろんなところに壁画が描かれたんです。最も有名な大学が壁画だらけになっている、しかも巨大な壁画ということで

僕は 40 年前にもここに来たんですけど、その後、大学自体が世界遺産になりました。

中塚：大学の地図ですが、大学の敷地内に大きなスタジアムがあります。大学を母体に設立された UNAM 「プーマス」のホームスタジアムです。ここにも壁画があります。

小島：スタジアム名は「オリンピック 68」で、40 年前に、ここでフランス vs イタリアを見ました。この大会のイタリアは結構ポンコツで、あっさりフランスに負けちゃった気がします。1968 年のメキシコ五輪のときは、釜本もここでグループリーグを戦ったと思います。

中塚：という由緒正しきスタジアムです。

この日の一連の動きは、「アステカスタジアム」に向かうルートだったんです。UNAM のスタジアム前からタクシーでここまで来て、腹ごしらえして、ここから歩いて歩きます。このあたりから、メキシコ古代文明の歌や踊りのパフォーマンスが迎えてくれました。

そしていよいよ「シウダード・デ・メヒコ」という名前になったアステカスタジアムで、コロンビアとウズベキスタンの試合です。





見ての通り黄色だらけです。その中で、なぜか私は帽子を被っています。

黄色の人に紛れてごく少数のウズベキスタン人がいるんです。入場前に、僕らのユニフォームを見て「写真を撮ろう」と寄ってきたウズベキスタン人が、「ギフトをあげるよ」と言って渡してくれたのが、この帽子と、ウズベキスタンの歴史について書かれた小冊子でした。

小島：最初は宗教の冊子かと思いました(笑)

中塚：お返しを何も用意してなかったのが申し訳ないだけだね。

回覧します。かぶってみてください(笑)。

スタジアムに入ると、9割以上がコロンビアのサポーター。周りの人たちとも和気あいあいで過ごしました。守屋さんご夫妻も、私たちの少し後ろの席でしたね。



この音量をお聞きください。どこからともなく大合唱が始まります。

Va~mo~s Va~mos Colo~mbia~ バーモース バーモース コロンビアー

E~sta~ No~che~ エースター ノーチェー

Tenemos que Ga~na~r~ テネモスケ ガーナールー

っていう歌です。スペイン語の勉強にもなります。

小島：そうですね。Esta Noche は今夜。Tenemos que は MUST。We Must Win ですね。

今夜、勝たねばならない、コロンビアはという歌です。

中塚：歌いまくってました。ウズベキの人たちは1ヵ所にまとまってこじんまりといました。

改めて思ったけど、我々も 1998 年は今回のウズベキスタンと同じでした。初めての W 杯です。大舞台に来たのは選手やチームだけでなく、サポーターもそうだったんです。ようやくたどりつけた感慨はありましたが、ここが W 杯の舞台かというお客さん、観光客の気分で、「ともに戦う」まではいってなかった気がします。



試合が終わり、帰るところでウズベキスタン人を発見したので「写真撮ろうぜ」と言ったら、謎のメキシコ 3 人組が割り込んできた写真です。最後までハイテンションでした。



小島：ちょっといいですか。さっきのところで、試合が終わってからも「日本人写真撮ろうぜ」ってすごい集まってくるんです。たぶんメキシコ人たちは、あの帽子を日本の帽子だと思ってるんですね。昔、ひょうきん族でこんな被ってる人いましたけど、そういうノリでどンドン寄ってくる。

なぜか中塚さんのところに来るんです。なんでかなと、僕も考えたんです。ファンフェスタの時もそうなんですけど、なんで中塚さんのとこばっか来るんやと。

一つは、ファンフェスタ会場では、僕はサングラスをかけていて、表情が見えないからイマイチかなということで、この試合は夜だったので、顔が見えるようにこっちの眼鏡をかけていたんです。でも来るのは中塚さんの方。いろいろ考えたんですけど、このお顔、割と平面で頬骨が高くて、目がシュッと細い中塚さんの顔は、「THE 東アジア」なんです。だからもう「ハポン」なんですよ。私の方はそうでもなかった。きっとそういうことです（笑）

中塚：小島さんはむしろメキシコ人ふうやもんね（笑）

小島：はい。また後のシーンで言いますけど、しまいに胴上げされてしまうんです。

■第 5 日：6 月 18 日(木) メキシコ vs 韓国をファンフェスタで観戦

中塚：翌日も、市内散策しながらファンフェスタへ向かいます。ファンフェスタのすぐ横に「メトロポリタン・カテドラル」があります。いまのメキシコ市は、もともとあったテノチティトランというアステカ帝国の都市を、侵略してきたスペイン人が全部破壊して、その材料を使って作ったという、えげつない話です。それがいま、スペイン風の聖堂や博物館になっています。

テノチティトランの中央神殿跡が「テンプロ・マヨール」で、遺構が残され、博物館が併設されています。ここにもフエゴ・デ・ペロタの痕跡や、テノチティトランの復元模型がありました。



小島：1521 年にエルナン・コルテスがメキシコシティを陥落させるわけです。この時の首都がテノチティトランで、それがメキシコシティの前身です。

復元模型がありましたが、大都市だったんです。それを数十名の騎馬のスペイン人が率いる軍勢がいっぺんに侵略して滅ぼした。アステカ文明の最後の首都がここで、それがそのまま廃墟として残り、その隣にメトロポリタン・カテドラルがあって、その横がソカロという大きな広場です。ソカロには大統領府があって、シェインバウム大統領もここに居る。

メキシコのだ真ん中というエリアです。

中塚：ファンフェスタに入る前に腹ごしらえ。この日は相当気合を入れてファンフェスタに入らなあかん。メキシコと韓国の試合だからです。メキシコ人がわんさか押し寄せて立錫の余地也没有。この状態でもどんどん後ろから入ってくる。圧死するんじゃないかと思うぐらいで、スクリーンに映った自分たちのすがたはこんな感じです。

途中から大雨になってきました。雨季のメキシコは、夕方になるとほぼ毎日スコールがあります。



試合は 1-0 でメキシコが勝って 2 連勝。ノックアウトステージ進出が決まり、メキシコ人のテンションは上がりっぱなしです。ファンフェスタ会場を出ても大賑わい。

しまいには、なぜか私は胴上げされます。

スマホ映像を ON にしていたので、少し見てみましょう。

<「胴上げシーン」の映像視聴>



中塚：実はこのシーンのちょっと前に、「みーやーぎ、みーやーぎ」というコールがあったんです。アステカスタジアムでもコロンビア人に言われました。何のことか全くわからなかったんだけど…

小島：中塚さん目がけての「みやぎコール」はいろんなところでありました。最後にモンテレイで、前の席に座った人に教えてもらいました。「ベストキッド」っていう…

中塚：空手の映画の宮城先生。似てるのかな？

会場：似てる。似てる。

小島：アステカでも、ここでも、それからモンテレイでも、それぞれで、別に打ち合わせてないのに「みやぎチャント」がこんな感じでやっていました。



中塚：この人波はどんどん続きます。町のど真ん中にソカロがあって、その辺からぞろぞろと人が歩いていくわけです。おそらくソカロ以外のパブリックビューイングやレストラン、いろんなところで応援していたメキシコ人が、レフォルマ通りを占拠して歩いています。車は通りません。彼らが向かっていたのが、先ほど出てきた独立記念塔で、この周りがものすごいことになっています。

この写真は、ホテルの部屋の TV に映っていたものですが、レフォルマ通り沿いのホテルだったので、夜遅くまで大声で騒いでいるのが聞こえていました。

■第6日：6月19日(金) モンテレイへ移動

中塚：朝からモンテレイへ移動です。空港から外に出て「うわっ」と思ったのは、蒸し暑さです。メキシコシティは、暑くて日射しは厳しかったけどカラカラでした。こちらは暑いだけでなくじとっとしている。日本の夏と同じ。気温は 32～33 度ぐらいだったかな。

小島：もっとあったんじゃない？

中塚：もっとあったかな。その中でチュニジア戦が行われたということです。

OXXO（オクソ）というのが、メキシコで一番多いコンビニです。モンテレイ市内でも何箇所かパブリックビューイング会場があり、前夜はメキシコ vs 韓国をやっていたようです。

街なかを散策したあと、イタリア料理レストランを見つけたので早い夕食。店を出たら雷雨になり、身動きが取れなくなりました。本当はモロッコ vs スコットランドをファンフェスタ会場で見ようと考えていましたが、とてもじゃないけど無理。ということで、こちらのレストランでビールと刺身を食べながらスコットランドの応援です。

けど残念。負けちゃいましたね。

小島：「SASHIMI」っていうメニューでしたね。マグロの刺身漬けです。緑はアボガド。

中塚：このレストランは人が少なかったけど、別のレストランには人がいっぱいいて、「みーやーぎ」になりそうだったので早々に退散しました（笑）



■第7日：6月20日(土) モンテレイ市内観光&日本 vs チュニジア観戦

中塚：いよいよチュニジアと日本の試合日です。夜 10 時キックオフなので昼頃から出かけました。サラゴサ広場の方へ向かうと、日本のテレビからインタビューを受けました。読売テレビと TBS です。



ここにも歴史博物館があり、行ってみました。立派な博物館で十分楽しめました。ワールドカップの特別展示もあり、これまでの W 杯はもちろん、歴代メキシコ代表の紹介もありました。W 杯に 5 回出場した GK のアントニオ・カルバハルのパネルもあります。ちょっとマニアックですね。

また、マニアックな僕でも知らなかったんですが、1971 年にメキシコで、FIFA 非公認の女子ワールドカップが開かれていたんです。映像や写真で紹介されていました。1968 にオリンピック、1970 はブラジルが優勝した W 杯、その翌年には非公認の女子 W 杯。大観衆が詰めかけて盛り上がっている様子がわかります。

お土産も買いました。プラザメヒコというところで、手作りのお土産です。



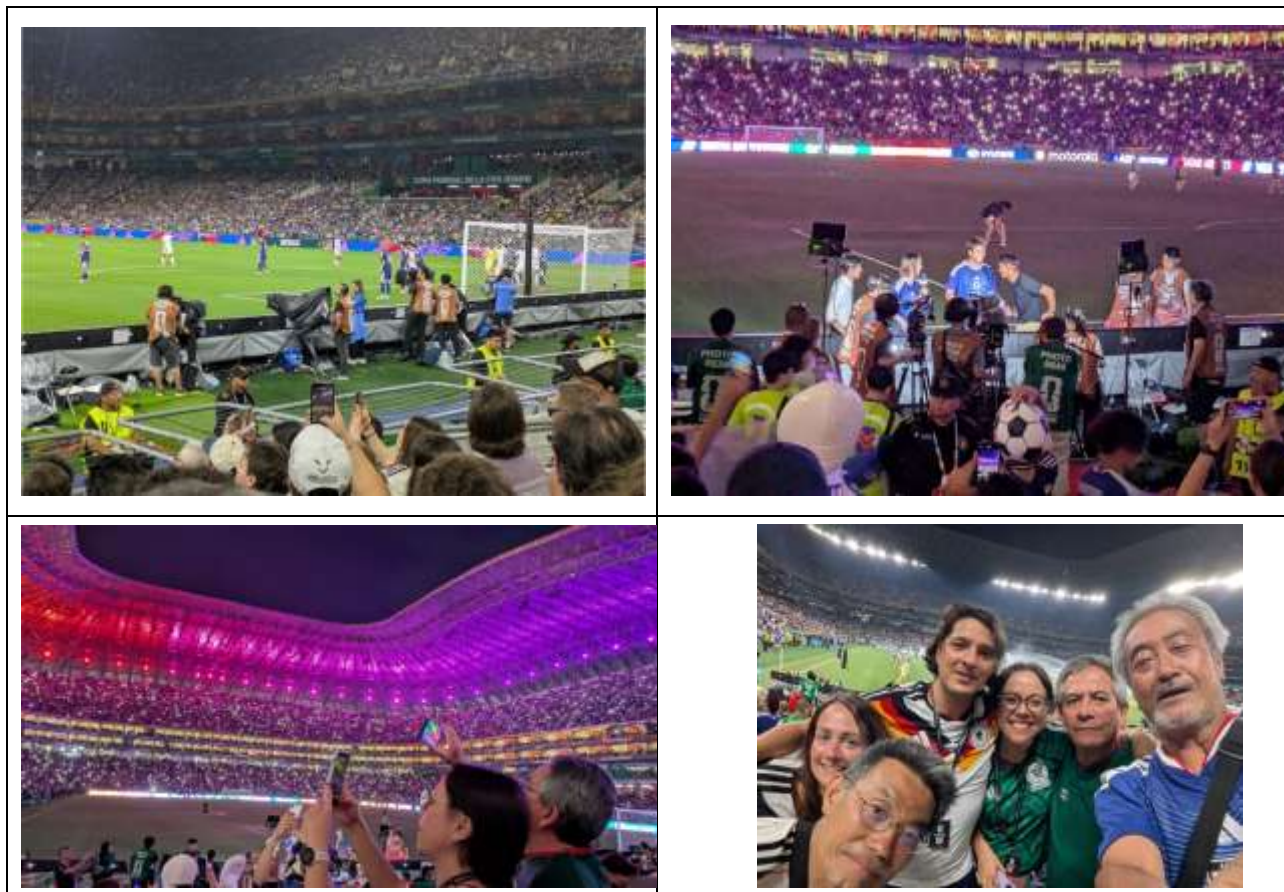
キックオフは現地では 22 時。日本時間だと日曜日の午後 1 時ですね。

メトロで移動してスタジアムへ。騎馬警官がいます。宇宙船が着陸したようなスタジアムです。なぜかドジャースの大谷君のユニフォームを着ている人や、FC 東京のユニフォームを着たメキシコ人のグループもありました。日本でも会わないような知人にも何人か、ばったり会いました。

チュニジア戦の座席はゴール裏の前の方でした。ハーフタイムの様子です。目の前で、槇野や竹内涼真らが中継していました。

周りのメキシコ人は、もちろんみな日本の応援です。盛り上がりましたね。





普段私は LINE や Facebook は眺めるだけなのですが、今回はほぼ毎日、写真入りで上げていました。取材を受けたことやスタジアムの様子も送ったのですが、日本にいる友人から「ミヤネ屋に出とったで」と連絡がありました。息子が送ってくれたテレビ画面の写真です。

スタジアムを出たのは深夜ですが、メトロはちゃんと動いていて、タダで乗れました。

■第 8 日：6 月 21 日(日) ウルグアイ vs カボベルデをファンフェスタで観戦

中塚：この日がモンテレイの、メキシコの最終日です。午前中はホテルで荷造りしたりゆっくりして、午後はメトロに乗ってファンフェスタへ出かけました。製鉄所跡地が公園になったところにできたファンフェスタで、芝生に座って観戦できて居心地は良かったです。メチャクチャ暑かったのですが、日曜日だったので家族連れもいっぱい来ていました。

カボベルデとウルグアイの試合を見ました。暑すぎて、管理エリア内ですがビールを注文、1 杯 300 ペソ。3,000 円のノンアルコールでした。



左の写真は、芝生で我々の前に座っていた人で、耳の不自由な方でした。

小島：お二人ともそうでしたよね。

中塚：右写真のメキシコのあんちゃんからはインタビューを受けました。TikTok で配信していると言っていましたね。



後ろの山がすごくきれいな
んです。「セロ・デラ・シー
ジャ」と言います。

小島：スタジアムからも見え
るらしいんですけど、試合が
夜だったのでよくわかりませ
んでした。



■第 9～10 日：6 月 22～23 日(火) 直行便（12 時間）で帰国⇒日常へ

中塚：メキシコへ来るときは一日がメチャクチャ長かったのですが、帰りは一気に 2 日分使います。

6 月 22 日(月)の朝 1：35 モンテレイ発、12 時間弱のフライトで
時差は 15 時間。23 日(火)の朝 6 時過ぎに成田空港着です。荷物を
とって入国し、6：55 に解散し、火曜日から日常生活に復帰しま
した。

小島：その日にさっそく大学の授業に行かれたんですね。

中塚：週 2 日だけ大学の非常勤に行っていますが、火曜日の午前中
に一つあるんです。先週はオンデマンド授業にしたので、この日
は空港から直接行ってサッカーの実技をやりました。

ということで、ザッと旅を振り返りましたが、最後に「メキシ
コ」と「ワールドカップ」について、こちらからコメントさせて
いただき、皆さんからご意見、感想をいただけたらと思います。



Ⅲ. 意見交換―「メキシコ」と「ワールドカップ」

1. 「メキシコ」について

小島：一つエピソードがありまして。ソカロでは僕でした。モンテレイのスタジアムでは中塚さんです。それぞれが地元の人から「あるフレーズを言え」って言われるんです。僕なんか動画に撮られて。お姉ちゃんが寄ってきて、「Repeat after me」みたいな感じで、僕がそのまま言われるのをやるんです。喋らされる。中塚さんは、隣の席のお兄ちゃんに言われたんですよ。

中塚：初日のパブリックビューイング会場でも言われたよ。小学生ぐらいの女の子に。

小島：そうそう。2人共通で言われたのが「チンガダ」とか「チング」という言葉です。「チンガダなんちゃらかんちゃらアメリカ」とか「チングなにやら」みたいな。「チンガダ」とか「チング」がキーワードです。しかも喋ってくるやつが薄ら笑いを浮かべて動画を撮ったりしています。スタジアムで言われたときは、周りの人が注意していました。「こんなこと言わすな、日本人に」と。「あの人はカラテキッズやぞ。あの人に言わしたらアカン」という感じです。

帰国してから調べたんです。すると、動詞でチンガール(chingar)という言葉があるんです。この動詞の活用形です。おそらく「アメリカ死んでまえ」とか「Son of a bitch」みたいなこと言われて動画に撮られたんですが、「あほな日本人が言うとなるわい」というのが、いまもどこかの SNS で流れてると思うんです。

ちょっと長くなるけどいいですか。なんでそんなことをいろんなところでやってくるのかについて少し調べてみました。「イホス・デラ・チンガダ(hijos de la chingada)」という言葉がメキシコ人の間にあります。「チンガダ」というのは「ファックされた」みたいな言葉。「イホス・デラ・チンガダ」は「凌辱された女性の息子たち」。メキシコ人でノーベル文学賞を取ったオクタビオ・パスという思想家・詩人がいるんですが、その人が言い出したことです。「凌辱された女性の息子たち」というのは俺たちのことだと。スペイン人がメキシコを侵略し、先住民の文明を完璧に破壊して、民族の記憶すら失わせるぐらいに破壊してしまった。女性たちを凌辱し、男性を殺し、銀山とかで劣悪な環境で働かせる。そしてヨーロッパ大陸から伝わった病気でものすごい数、おそらくメキシコの先住民の人口は 10 分の 1 ぐらいに減っています。ということで、民族の記憶をほぼ失った状態から近代メキシコが始まり、そして混血が進んだ。そういう植民地支配のトラウマとナショナルアイデンティティの葛藤が、メキシコ人のアイデンティティの原点にあるということを、オクタビオ・パスという人が言っていました。そして、それは 19 世紀から 21 世紀にかけてのアメリカ、北の巨人、USA による南北両アメリカ大陸の経済的な支配。これに彼らの記憶が上塗りされてるんですね。15~16 世紀はスペイン人が侵略した。19~20 世紀になると、我々メキシコ人はアメリカ人に凌辱されている。日本人は、カリフォルニアとかテキサスはアメリカのものだと思ってますけど、あれは米墨戦争に負けて、メキシコの国土が半分になった時に持っていかれてます。

1980~90 年代には、NAFTA、いまの USMCA によって、グローバリズムと自由競争の経済がアメリカから持ち込まれます。僕が 40 年前にメキシコに行った時は、メキシコの街中にいっぱいあったお店(個人商店)が、コンビニに変わり、ウォルマートに変わり。いわゆる経済的な支配がぐっと進む。と同時に、彼らはアメリカ人の、アメリカナイズされた生活に同化していくわけです。アメリカナイズされた生活がなければ、いまの彼らは生活できないけど、一方でアメリカに抑圧されているという意識はすごく持っている。

最近になると、大量の移民を送り出してアメリカの社会を底辺から支えているのに、トランプからは犯罪者のようにボロカスに言われている。このあたりの彼らの、すごく屈折した思いみたいなのが、「イホス・デラ・チンガダ」という言葉に凝縮されているという見方があるようです。

僕らにインタビューしてきた人たち、動画で撮った人たちが、そこまでの意識を持って我々に接してきたかという、本当のところはわかりませんが、民族としての潜在意識の中にはそういったものがあり、それはそういう形で我々に接してくるところににじみ出てくるということがあったようです。

メキシコっていうと、情熱の国、陽気な人たちというステレオタイプになりがちなんですけど、そうじゃない。光と影で言えば影の部分というの、僕らが体験した中に、ちょっと影を落としていたのかなと思った次第でございます。

中塚：その通りだと思います。

あまり時間はないんですけど、オンライン、会場含め、皆さんの方から「メキシコ」という切り口で、あるいは「ラテンアメリカ」でも構わないんですけど、お気づきの点、感じたことなどがあれば出していただければと思います。

黒田：いまオクタビオ・パスの話が出てきました。ノーベル文学賞は 1990 年です。いま出たお話は、私がまだ若い頃、大学でちょっと喋ったことでした。ナショナルアイデンティティの問題です。杉本先生もご存知だと思うんですけど、パウロ・フレイレというラテンアメリカの教育学者がいます。また、メキシコで活動して『脱学校の社会』を著したイヴァン・イリイチがいます。抑圧から解放されるための教育と定義して、抑圧のための学校教育じゃない、自分の解放のための教育なのだということを言ったイリイチは、やはりメキシコのそういう背景から出てきて、それが世界に広まったということですね。世界的に有名な古典です。

大学で関連した科目を教えるときにその話題を出して、オクタビオ・パスがノーベル文学賞を取ったのがちょうどそのころでした。

その前にメキシコで W 杯があって、何となくメキシコについて関心を持った時だったので、非常に懐かしく思いました。メキシコのアイデンティティというのはまさにそれなんだろうなということで拝聴しました。ありがとうございます。

2. 「ワールドカップ」について

中塚：ではもう一ついきましょうか。「ワールドカップ」というところです。スライドがあるんですが、うまく映りません(右)。

ずっとワールドカップを追いかけてきましたが、私の場合、2010 年以來の現場体験となりました。変化し続けるワールドカップですが、やはり現地には行ってみるものだということを改めて感じました。

行くことで「俺は地球人なのだ」ということが感じられます。どういうことかというと、今回もカボベルデやキュラソーなど、知らない国が出てきましたが、間違いなくそこで人々は暮らしています。暮らしがあるならそこにはサッカーがある。そしてその代表チームがこうやって出てきて、知ることになる。

ワールドカップに出る、来ることで「地球人」を自覚できる。これはすごく大事なことだだと思います。と同時に、例えばキュラソーにしてもカボベルデにしても、そこで生まれ育った人が代表選手になっているわけじゃない。ナショナルチ

「FIFAワールドカップ」ってな～に？

1. 「ナショナルチーム」の世界一を決める
⇒ 「ナショナル」の定義は時代とともに...
2. 4年に一度の開催
⇒ 「クラブチーム」によるリーグ戦・カップ戦が“日常”
W杯は「ナショナルチーム」による“非日常”イベント
3. 「予選(Preliminary Round)」も「本大会」も、ともにワールドカップ
予選：大陸ごと⇒大陸間プレーオフ
本大会(Tournament)
○「グループステージからノックアウトステージへ」
×「予選リーグから決勝トーナメントへ」
4. 「人類の祭典」ー世界最大のスポーツイベント⁵⁵
主催はFIFA(国際サッカー連盟)

注) 7/18 日本ヤタガラス協会総会後の講演会(那智勝浦町)で用いたスライド(7/17に見せられなかった)

ームではあるけれど、そもそもネーションをどのように捉えるかが、どんどん変わってきているということを、今回改めて感じた次第です。

また、皆さんも感じておられると思うけど、ワールドカップが大きくなりすぎて、いろんな人や組織、政治勢力などに利用されている。気分悪い事件がいろいろ起きているのが気になります。

いま一番心配しているのは、決勝戦が終わった後の表彰式で、誰かがトロフィーを優勝チームに渡すんですけど、どこかの国の大統領がしゃしゃり出て、優勝チームの喜びのシーンに映り込むことはないやろかと…。すごく心配しています。ハーフタイムショーもやらんでえええのに…。サッカーの邪魔になることはせんといってくれと。これも心配ですね。

残り時間はあと少しですが、言っておきたいことがある方、ぜひお願いします。

本多：W 杯の日本代表とサロン 2002 のつながりがあることを紹介しておきます。サロン 2002 ではずっと U-18 フットサルに取り組んでいます、以前やっていた「ユースフットサル選抜トーナメント 2015」の得点王に鹿島学園の選手がなったんですけど、それが上田綺世です。11 点取っています。

<https://jff-futsal.or.jp/competition/u18/archive/2014/score.html>

記憶になかったんですけど、調べてわかりました。

中塚：そうですね。得点王だと賀川浩賞かな。

本多：上田君の家には賀川浩賞があるかもしれませんね。

野村：お話しごい勉強になったっていうか、考えさせられました。メキシコという国のことについていろいろ知ることができて、ほんと勉強になりました。

守屋(俊)：フリーダ・カーロさんのお話がありました。美術好きなので知ってたんですけど、旦那さんはメキシコの巨大壁画の巨匠、ディエゴ・リベラです。フリーダ・カーロさんもすごく大変な思いをされてきた方です。

メキシコという国をいろいろ知ることができて勉強になりました。ありがとうございました。

高原：一ついいですか。今回、ハイドレーション・ブレイクが入りました。テレビだと CM が入りますが、現地ではどういう時間の過ごし方をされていたのでしょうか。楽しみにされていたのか全く無関心だったのか。どのようにあの 3 分間を過ごしていたのかなと。

中塚：僕らが会場で見た試合については、違和感なく過ごせましたね。とにかく暑かった。暑い中での給水タイムだから妥当だなと思って見ていました。けどアメリカの、冷房が効いているスタジアムではそうではなかったんじゃないかと思います。

宮崎：アメリカの会場では音楽がかかっていましたね。音楽がかかって、観客席を映してくれる。

中塚：音楽は鳴ってたかなあ。

小島：鳴ってましたね。

中塚：守屋さん、そのあたりどうでした？ メキシコもアメリカも行かれたと思うけど、ハイドレーション・ブレイクの時の会場の雰囲気。

守屋(俊)：メキシコで試合見たんですけど、アメリカでは見てません。メキシコにいました。

守屋(佐)：これがフリーダ・カーロが描いた絵です。衝撃的な絵が多く、これも心臓から血を出している感じの絵です。それから絵はがきを買ってきました。今度東京の時に持っていきます。

小堀：いまアメリカにいます。ハイドレーション・ブレイクのときは、アメリカでもだいぶブーイングが出てました。ヨーロッパや南米から来ている方は、ブーイングを非常にされていました。

あと一つ。先ほど言われた民族とネーションの話ですけど、ちょっと考えることがありました。イングランドは黒人が非常に多い。それで強くなっているところがあると思うんです。1998 年に優勝したフランスも、民族が団結して優勝につながったと言われていました。日本代表も、今回鈴木彩艶が大活躍したので、そういったところが日本にももっと出てくると、もう少し上へ行けるのかということ 생각합니다。

先ほど中塚先生が言われたように、どこからともなくコロンビアの歌声が広がっていく。イングランドもそうですよね。そういうところがないと、そういう文化にならないと、勝てないんじゃないでしょうか。底辺から、湧いて出てくる気持ちというのが国民の中にないと、上には行けないんじゃないか。その下地作りを僕らはどうするのかということを考えさせられたことが、今回の大きな収穫でした。今回で連続 3 回来てるんですけど、そういうところを常に考えさせられる W 杯です。

語り足りないんですけど、この辺にしときます。

中塚：ありがとうございます。ワールドカップには人それぞれ「思い」がありますし、ワールドカップをきっかけに他のことを考えることにつながります。このあと場所を変えて続きをやりましょう。

会場組はこのままそろそろ 12 人で続きをやりませんが、オンラインの皆さん、ここで一旦締めさせていただきます。

あとは 3 位決定戦と決勝戦だけです。終わったらワールドカップ・ロスになりそうですが、最後の 2 試合、盛り上がっていきましょう。

来月もワールドカップを取り上げます。今日はどうもありがとうございました。

(続きは野田駅前の居酒屋へ)